

一般社団法人WATALIS 平成26年度事業報告書

事業名	「心を繋ぐ手しごとワークショップ～共に創るみんなの居場所～」	実施期間	平成26年4月～平成26年6月
-----	--------------------------------	------	-----------------

事業目標

被災地の女性の学びと就労の機会提供をめざして、着物地を用いたリメイク雑貨の製造販売も手掛けているが、まだ法人化して1期目であることや各省庁の補助金を活用して事業の持続拡大を図っており、製造販売事業の収益で「被災地域住民の交流の場づくり事業」まで行える段階にはない。

今年度までの2か年に渡り、「被災地域住民の交流の場づくり事業」の貴重な財源となっていた独立行政法人福祉医療機構の補助金についても、3年目を迎える来年度は取得が非常に難しい状況である。

東日本大震災の後に、被災地域に生まれ、事業運営や講師も地元女性が行う手作りの交流の場を、絶やすことなく、復興に向けて地域住民の心を癒し、未来に向かって歩み続ける活力を提供できる場に育てていきたい。

事業内容

①開催目的及び内容

手しごとに代表される地域の民俗の伝承が困難となった被災地域において、参加者が自らの資質を向上させ人との結びつきを感じることができるような場を開設し、和・洋裁をはじめとした「手しごと」を学ぶワークショップと茶話会を定期的実施する。参加者同士が交流を深め、悩みを語り合える癒しの場として機能させることで、互いに支え合う仲間がいるという安心感を得ながら、自ら復興に取り組む意欲を高める。福島県内での活動実績を持つ一般社団法人Bridge for Fukushimaと任意団体Emicleと連携することで、広報対象地域を拡大し、広域的な交流を促進させ、新たな人的ネットワークを構築する。各回ごとにアンケートを実施し、参加者数・参加者の満足度等の調査・参加者の年代、居住地等の調査等を行い、よりよい事業運営に努める。(講話及び実技研修2時間、茶話会1時間、計3時間程度)

講師謝礼対象時間各回ごと3時間

②開催日 平成26年4月、5月、6月、各月ごとに2回 全6回

③開催場所 被災地域(宮城県亘理町内)

亘理町内での開催については、被災地域内の公共施設などは通年で定期的に会場として使用することが困難な状況であるため、事務所に隣接する建物を借用するものとする。

④対象者 地域住民(子ども及び保護者、高齢者など 定員各回20名程度)

⑤講師 手しごと関係者1名(謝金対象1名 @7,200×3H)

⑥広報 チラシ3,000部 月1回作成する。(3回)

配布先:地方公共団体、災害復興ボランティア関係団体、関係者、関係団体、他希望者 亘理町臨時災害ラジオ「FMあおぞら」に取材と参加呼びかけのための放送を依頼する。各種報道機関に情報を発信し、広範囲に周知を行う。亘理町内で活動するNPO法人に告知チラシ配布を依頼する。

⑦その他 優良類似事業を現地調査し、円滑な運営と事業の質の向上に資する。

予算

東日本大震災 草の根支援組織応援基金 492,600円

人員体制

主担当:代表理事 引地恵

副担当:理事 橋元あゆみ

副担当:理事 菊地喜久江